

第1学年＊組 国語科学習指導案

指導者 草間 大史
R3 研修センター長期研修

- 1 単元名 根拠を示して説明しよう
—「健康」について調査し、自分の考えを報告する文章にまとめよう—

2 本単元の目標

- (1) 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うことができる。(知識及び技能) (2)イ
- (2) 書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。(思考力、判断力、表現力等) B (1)イ
根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) B (1)ウ
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

(学びに向かう力、人間性等)

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方などについて理解を深め、それらを使っている。(2)イ)	① 「書くこと」において、書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えている。(B (1)イ) ② 「書くこと」において、根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。(B (1)ウ)	① 粘り強く自分の考えが伝わる文章になるように工夫し、学習の見通しをもって報告する文章を書こうとしている。

4 単元について

(1) 教材観

本教材は、文章の構成を捉えて、情報を整理し、自分の考えを報告する文章にまとめるために、データや引用、体験など調査した確かな事実や事柄を根拠として、自分の考えをもつことで、説得力のある文章を書くことができるように構成されている。既習教材「情報を整理して書こう」においては、「情報を整理して書くこと」、「構成を考えて書くこと」の2点を学習している。その発展として本教材は、整理した情報を根拠とし、自分の考えを書くというように関連付けられている。根拠については、複数のものを適切に使用することで、説得力が高まることも確認することができる。報告する文章を書く手順や方法については、①課題を決め、調査を行う、②調査結果を整理し、構成を考える、③図表などを引用してレポートを作成する、④レポートを読み、評価し合う、という順で教材が構成されている。このように、報告する文章の手順や方法について明確に示されており、生徒が文章の構成を捉えて、情報を整理し、自分の考えを報告する文章に

まとめることを学ぶのに適した教材である。

(2) 生徒観

1学期に行った「情報を整理して書こう」の実践では、適切な構成を考えて、調べた情報に基づいて自分の考えを書くことができた生徒は*人、適切な構成を考えているが、調べた情報を整理して書くことができなかった生徒は*人、適切な構成を考えることができず、調べた情報を整理して書くことができなかった生徒は*名であった。このことから、構成を考えて情報を整理して書くことに課題があることが分かった。

(3) 指導観

本研究では、中学校第1学年「根拠を示して説明しよう」において、生徒がプログラミング的思考を生かして体系的に学習活動を見通し、段階的に書く学習活動を行うことで、文章の構成を捉えて論理的に自分の考えを書く力を育てていく。中学校国語科の「書くこと」におけるプログラミング的思考は、文章の種類を選び、文章の構成要素を捉え、内容や表現を工夫して書くという一連の学習活動に生かすものと考えられる。このことから、今回は、調査したことを報告するための原稿を書くために、情報を整理して自分の考えを書くという単元の見通しをもって学習活動を進めていく。書く学習活動の学習過程に応じて、タブレット型端末を用いて思考ツールを活用し、思考を可視化したり、思考の過程を保存したり、他者と双方向的に共有したりする。このように、文章を書く一連の学習活動を通して、構成を捉えて論理的に自分の考えを書く力を育てることができると考え、本主題を設定した。

5 単元の指導計画（7時間）

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価方法・留意点等
1	1	課題 文章を書くためには、どんな見通しをもてばよいのか？ ・プログラミング的思考を生かして文章を書くこと（とらえる・わかる・ならべる・ふりかえる・つかう）について理解する。 まとめ 文章を書くためには、段階的な見通し（とらえる・わかる・ならべる・ふりかえる・つかう）をもつとよい。			○	・「健康」について調査し、報告する文章を書く学習を行うことを確認する。 ・プログラミング的思考について理解できるようにモデルを提示する。 ・プログラミング的思考を生かしてレポートを完成させる学習過程について理解できるようにする。 ・プログラミング的思考を生かして文章を書くことの段階的な見通しをもてるようにする。 思①文章を書くための段階的な見通しを理解できていない生徒には、ヒントカードを示し、一連の書く学習活動を理解できるようにする。 【行動の観察】
2	2	課題 報告する文章を書くためには、どのように情報を集めればよいのか？				・「健康」について調査し、報告する文章を書く上で必要な情報を集める学習活動の見通しがもてるようにする。 ・タブレット型端末の「くまでチャート」を用いて、レポートの構成について振り返り、必要な情報を考えることができるようにする。

2	2	- 情報の集め方について、別テーマを用いて理解する。 - テーマ(「運動」「食事」「睡眠)」を決める。 - 仮説を立てる。 - タブレット型端末のアンケート機能を使って情報を集める。 - 引用について考える。 - 体験について考える。 まとめ 報告する文章を書くためには、データ、引用、体験などから情報を〈わけ〉て集めればよい。	○		- 別のテーマの情報を比較したり分類したりして、情報の集め方について確認できるようにする。 - グループごとに、選んだテーマについて仮説を立てられるようにする。 - クラスの全生徒を対象にアンケート調査を実施し、仮説が実証できるようにする。 - 自分の考えを支える根拠を書籍の中から引用するよう助言する。 - 自分の体験について振り返り、まとめるように促す。 知①情報を集められていない生徒には、ヒントカードを示し、仮説を基にした情報の集め方について理解できるようにする。 【記述の確認(タブレット型端末)】
	3	課題 報告する文章を書くためには、どのように情報を整理すればよいのか？ - 実施したアンケート調査を整理する。 - 引用する箇所を決定する。 - 体験をまとめる。 - 集めた情報をもとに、段落の役割を意識してレポートの「考察」を書く。〈わけ〉る まとめ 報告する文章を書くためには、着目する点や引用の仕方を確認し、根拠となる情報を〈わけ〉て整理して書くとよい。	◎	○	「健康」について調査し、報告する文章を書く上で必要な情報を整理する学習活動の見通しがもてるようにする。 - アンケート結果は、変化や数量が顕著な部分に着目する。 - 引用する場合は、出典や著者を明らかにする。 - 自分の体験は、他者の共感を得られるものを選択するようにする。 - アンケート結果、引用、自分の体験が確かな事実に基づいたものであるかを確認するように促す。 - タブレット型端末の「くまでチャート」を用いて、根拠の種類を考え、必要に応じてテキストの色を変更することで、交流しながら書けるようにする。 - 段落の役割を意識して〈わけ〉るために、タブレット型端末のテキストの色を変更する利点を確認する。 知①【記述の点検】 思②情報を整理し、それらを根拠として書くことができない生徒には、他者が整理した資料を提示し、参考にできるようにする。 【記述の確認(タブレット型端末)】
	4 本時 ①	目標：書く内容の中心が明確になるように、段落の役割などを意識して文章の構成や展開を考えることができる。			- 段落の役割を意識して文章の構成や展開を考えて書く学習活動について、見通しがもてるようにする。 - 段落の役割を意識して、アンケート結果、引用、体験などの根拠を基に、自分の考えを書くように助言する。

	4	課題 報告する文章を書くためには、どのように文章の構成や展開を考えて書けばよいか？ ・モデル文を用いて、文章の構成や展開について考える。 ・文章の構成や展開を考えて書く。〈ならべる〉 ・「事実」(～だ。～である。)と「考え(～と思う。～考える。)」の表記の違いを理解して書く。 まとめ 段落を順序立てて〈ならべる〉ことで、文章の構成や展開を考えて書くことができる。		◎	・段落を並べ変えたり、根拠を取捨選択したりして、文章の構成や展開を考えて書けるように助言する。 ・タブレット型端末を用いて、フローチャート式に順番を入れ替えて、文章の構成や展開について考えることができるようにする。 ・段落相互の関係を捉え、接続する語句についても留意するように促す。 思①【記述の分析(タブレット型端末)】 ・段落を順序立てたり取捨選択したりして〈ならべる〉ためにフローチャートを用いる利点を確認する。
3	5 本時 ②	目標：根拠を明確にしながら自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 課題 説得力のある文章にするためには、どうすればよいだろうか？ ・エラーモデルをもとに、検討したり見直したりする観点を確認する。 ・交流を通して、自分の考えと根拠の論理性を検討する。 ・自分の文章の根拠と自分の考えの論理性を見直す。〈ふりかえる〉 まとめ 根拠と自分の考えについて、可視化したり共有したりして、〈ふりかえる〉ことで、説得力のある文章にすることができる。		○	・根拠を明確にしながら自分の考えを伝える文章について、検討したり見直したりする学習活動の見通しがもてるようにする。 ・教師が用意するエラーモデルは、①「自分の考え」が適切でないもの、②「根拠」が適切でないもの、③「自分の考え」と「根拠」の関係が適切でないものを用いて、検討したり見直したりする観点が分かるようにする。 ・タブレット型端末で、「くらげチャート(改)」を用いることで、自分の考えと根拠の関係を可視化できるようにする。 ・交流を通して、自分の考えと根拠の論理性を検討することができるようにする。 ・助言を取捨選択し、自分の考えと根拠の論理性を見直すことができるようにする。 ・交流で出た助言は、次時に書き換えるためにタブレット型端末のテキストに記入して保存するようにする。 思②検討したり見直したりできていない生徒には、グッドモデルを参考にして、より説得力のある文章に書き換えることができるようにする。 【記述の点検(タブレット型端末)】

	6	課題 レポートを推敲して完成させよう。 ・交流の中で出た助言を生かして、レポートを推敲して完成させる。〈ふりかえる〉 ・第2次の中の〈わかる〉において根拠としたデータ、引用、体験について、より説得力がある文章になるように修正する。 まとめ 推敲して、より説得力のあるレポートを書くことができた。		◎	・前時で行った検討や見直しを基に、レポートの「考察」を書くという学習活動について確認する。 ・タブレット型端末のテキストに保存した前時の助言を確認し、修正しながらワークシートに記述するように促す。 ・書籍やインターネットを用いて再度情報を集めながら、より説得力のある文章になるように修正して書くようにする。 ・根拠とのつながりを意識して自分の考えを修正して書くようにする。 思②【記述の分析(ワークシート)】 ・提出されたワークシートを確認し、前時の検討や見直しを生かしてレポートを完成させることができたことを確認する。
4	7	課題 レポートを発表原稿に書き換えるには、どうすればよいか？ ・レポートと発表原稿の相違点を確認する。〈とらえる〉 ・新たに必要な情報などを追加する。〈わかる〉 ・聞き手を意識した話の構成を考える。〈ならべる〉 ・発表の練習を行うなど、原稿の構成や展開について考える。〈ふりかえる〉 ・発表練習に対して、相互評価を行う。 ・発表原稿への書き換えについて自己評価を行う。 まとめ レポートを発表原稿に書き換えるためには、〈とらえる・わかる・ならべる・ふりかえる・つかう〉を活用するとよい。		◎	・レポートを発表原稿に書き換えることが、これまでの学習を活用して文章を書くことになるという見通しをもてるようにする。 ・既習単元「話の構成を工夫しよう」を振り返り、留意点(問いかけ、呼びかけ、話題提示など)を確認できるようにする。 ・聞き手を意識した話の構成にするよう順序立てて書くように促す。 ・発表の練習を行いながら、発表原稿の改善点や修正点について考えられるようにする。 態①【記述の点検(タブレット型端末)】 ・これまでの学習を振り返り、文章を書く一連の学習活動が定着できているかを確認する。 ・他のテーマの発表を聞いて、順序立てて発表原稿が構成されていたか、根拠は適切だったかについて相互評価を行う。 ・評価カードを用いて、〈とらえる・わかる・ならべる・ふりかえる・つかう〉について自己評価を行う。 ・これまでの学習活動を振り返り、今後もプログラミング的思考を生かして文章を書くことができるようにする。